

東北海区沿岸水温予報(2003年)

海域	経過 (4~6月)	現況 (7月上旬~7月下旬)	見通し (9~11月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定地水温 3~6月: やや低め 6月の定継続結果 0, 50, 100m: やや低め 津軽暖流の張り出しはかなり強め 6月の水塊深度は やや浅め	定地水温 7月: はなほ低め	津軽暖流域の水温はやや低めから平年並みとなる。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並み	6月の対馬暖流の流幅は広めに推移した。 勢力としては並からかなり強	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表)	海洋観測結果 4月: 表面, 100m 深ともに低め。 5月: 表面は平年並, 100m 深はやや低め。 6月: 表面は平年並, 100m 深は一部で低めのほかは平年並	海洋観測結果 7月: 表面は県中部の沿岸沖合でやや低め, 100m 深は県中部以南の沖合でやや低め~低め。	表面は平年並, 100m 深は県中部以南の沖合でやや低めで推移する。	仙台管区気象台発表の東北地方気象3ヶ月予報によると9月以降は気温が平年並~やや高めに推移するため, 現況から多少昇温することが考えられる。100m 深水温も表面に伴って多少の昇温が考えられるが, 大きな時化等がない限り現在の海洋構造が変化するとは考えにくい。	6月の定置網でスケトウダラが例年に比べて多く漁獲されている。 7月のスルメイカの漁獲が好調である。 5, 6, 7月の定置網のサバ類の水揚げが206トンで, 対前年比24%と不調であった。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表)	4~5月: 表面, 100m 深水温とも平年よりやや低め~低め。 6月: 南部沖合海域で平年より3~4 高いほかは平年よりやや低め~低め。	<7月下旬> 表面水温は宮城県海域ほぼ全域で平年より極めて低め。 100m 深水温は東経142°以西の沿岸海域と東経143°以東の南部沖合海域ではほぼ平年並だが, 親潮系冷水の分布する東経142°~143°海域は, 南北に帯状に平年よりやや低め~極めて低め。	宮城県中, 南部沖合海域では平年よりやや低め~平年並, これ以外の沿岸海域, 北部沖合海域では平年より低め~極めて低めで推移する。	偏差連続モデル, 主成分スコア自己回帰予測モデル, 類似年モデルの3通りとも1ヶ月後の宮城県沿岸海域は低め傾向と算出。親潮第1分枝, これに伴う冷水が依然として強勢で, 黒潮流路はN型基調で南寄りに推移すると考えられ, また金華山沖の暖水塊も予測期間中に宮城県に影響を及ぼすほど接岸するとは考えにくい。	7月の海洋観測でマンボウが多数視認された。漁業者聞き取りでも「今年はマンボウが多い」との感想。 7月の海洋観測ではサルバガが多数入網されたが, 7月下旬の観測ではほとんど確認されなかった。 ・お調子沖の刺網にオオカミウオがかかった。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	4月: 親潮系冷水の勢力が強まり, 0m 深5 台の冷水が県中部沖に分布し「低め」となった。黒潮系暖水の波及はみられなかった。5月: 30 海里以東の沖合中心に親潮系冷水が南下し, 表層~下層で「やや低め~極めて低め」となった。黒潮系暖水は県南部のごく沿岸で弱く波及がみられるのみで, 目立った波及はみられなかった。6月: 50 海里以内は広く親潮系冷水に覆われ, 特に, 平年ならば黒潮系暖水の波及がみられる県南部で「極めて低め」となった。	7月上旬: 県中部沖に親潮系冷水が分布。黒潮系暖水の波及は極めて弱く, これまで平年より低めで継続していたが, 距岸30 海里以内は, 低め基調の平年並みとなった。7月中旬: 全旬に比べ, 表面は昇温傾向となったが, 距岸30~50 海里以東の下層は1~5 降温した。	期間を通じて, 25 海里以内は平年並み, 以東はやや低め~平年並みで推移するが, 一時的な親潮系冷水の波及により低めとなる海域がある。	これまでの経過 また親潮系冷水の勢力が弱まる時期にあるため, 25 海里以内は平年並み, 25 海里以東も低め基調が解消しつつあるが, 黒潮系暖水の北上も弱いため, やや低め~平年並み, また, 現況で三陸中にみられる冷水の南下も加味した。 主成分スコア自己回帰モデルでは低め基調の平年並み。	・昨年7月以降, 本県沖は親潮系冷水の南下が持続し, 水温平年差でマイナス基調が継続しており, 特に5~6 月にかけては「極めて低め」となった。 ・5 月上旬, 例年ではほとんどみられないクラフトマスがまとまって水揚げされた。 ・春季の低水温の影響で, 磯の海藻類が例年になくよく繁茂しており, ウニの身入りが良い。
常磐南部 ~ 鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	2月: 親潮系冷水の差し込みが継続し, 鹿島灘には暖水舌が形成されている。水温は黒潮域を除いて「低い」であった。3月: 親潮系冷水の差し込みが継続し, 水温は黒潮域を除いて「低い」から極めて「低い」であった。4月: 親潮系冷水の差し込みが継続し, 鹿島灘には暖水舌が形成されている。水温は黒潮域を除いて「低い」となっている。4月後半から5月: 鹿島灘で一時的に暖水舌が形成され, 一時的に「平年並~やや高い」となったが, 5月後半から6月: 沿岸で親潮系冷水の差し込みが強まり, 「やや低い~極めて低い」で推移し, 暖水舌の形成も沖合に留まった。	7月: 親潮系冷水の差し込みは沿岸域で継続し, 「低い~平年並」沖合域には黒潮系水が入り込み「平年並~やや高い」	9月: 親潮系冷水の影響が沿岸域で継続し, 「やや低い~平年並」沖合域には黒潮系水が入り込み「平年並~やや高い」	親潮第1分枝の張り出し, 黒潮北限はやや南偏傾向であり, 房総半島の黒潮も接岸傾向で, 前半, 沿岸部は親潮系冷水の影響が継続する。10月: 黒潮が房総半島の黒潮が離岸傾向となったとき, 一時的に鹿島灘に黒潮系暖水が差し込む。11月: 黒潮の勢力の後退とともに親潮系水差し込み日立沖から鹿島が差し込む	特になし

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10 海里内	距岸10~70 海里			
極めて高い (2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い (20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平年並み (40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い (20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い (7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い (2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~